

宮のふくダックミ

自動投入装置を導入

廃棄物サーマルリサイクル

月間3500—4000tを処理

ミダックふじの宮(静岡県富士宮市、鈴木博明社長、☎0544・58・9100)は廃棄物中間処理施設に、廃棄物自動投入装置を新たに導入した。廃棄物を専用の箱の中に入れ、炉に自動投入する装置で、廃棄物の焼却処理をより安全にするためのもの。

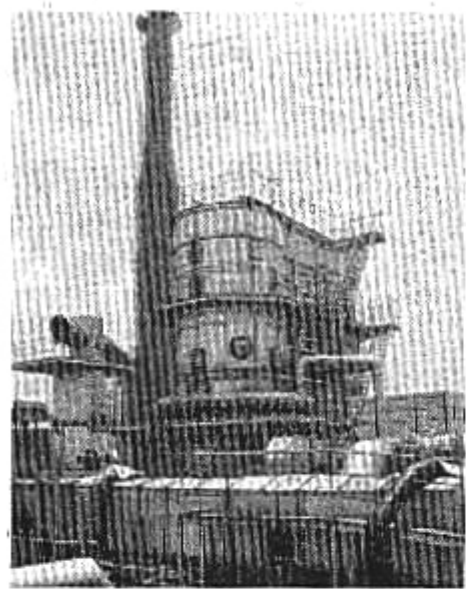
焼却施設は年間約330日稼働しており、年間約4万3000tの処理を行っている。廃棄物は主に静岡県を中心に関東・愛知東海・甲信越から収集運搬されてくる。受

入廃棄物のうちの7割が産業廃棄物で、3割は市町村からの一般廃棄物となっている。廃棄物の許可品目が多く、多種の廃棄物処理が可能だが、搬入物の受け入れ時には、受け入れ確認や成分分析を行い、安全確認をして処理している。

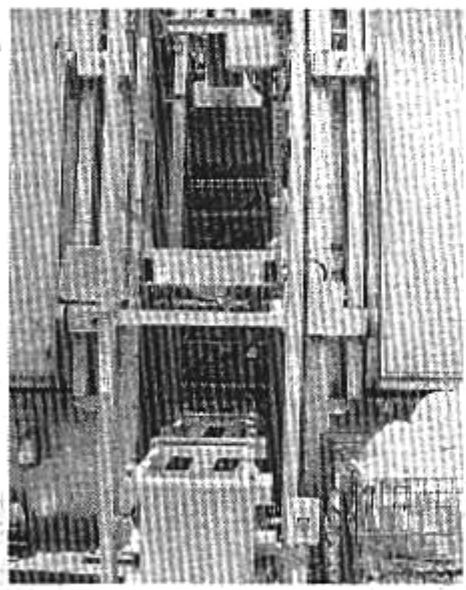
搬入された廃棄物は、カロリーを安定させるために、ピット内で混合して汚泥ホッパ、ストーカホッパ、キルンホッパに投入する。廃棄物性状に応じてロータリーキルン炉とストーカ炉へ投入後

二次燃焼室で完全燃焼させる。廃熱ボイラで熱回収した後、燃焼ガスはガス冷却室を経由し、2台の直列バグフィルタで除じんし、無害化する排ガス処理施設となっている。

焼却施設はサーマルリサイクル施設になっており、ロータリーキルン炉・ストーカ炉から発生する高温度の燃焼ガスエネルギーを回収、蒸気タービンで発電し、同社で利用する電気の3分の1をまかなっている。また、サーマルリサイクルを行う事により、二酸化炭素



焼却施設



廃棄物自動投入装置

(CO₂)を低減し、地球温暖化防止としてCO₂削減の役割も果たしている。

同社では「お客様から信頼される処理施設を目指し、より安全に廃棄物を処理する方法を従業員全員で考え、現状に満足することなく、常に改善改革し、「安全・環境との調和」を目指して事業を進めていきたい」と述べている。